

[解答にあたって]

問題例1. でフィクション分野だけに見られる重要な表現要素を紹介しましたが、その中のひとつ「アクション」を訳出する課題です。

題材は、19世紀に英国の植民地だったインドを舞台にした小説で、1857年に発生したインド大反乱(セポイの乱、シパーヒーの乱)に巻き込まれた新婚の英国人女性エリザベスが主人公です。課題の文章からは、そこまでは読み取れませんが、暴徒が迫ってくる緊迫感、怯えてパニックにかられるエリザベス、勇気ある行動も空しく斃れてしまうカーター青年などから、どのような場面なのかは、ある程度推測できると思います。

テンポよく畳み掛けてくるアクション場面を、映画でも見るように生き生きとした日本語で描き出せるかがポイントです。まず英語から読み取った場面を頭の中で思い浮かべ、それを日本語で描写する気持ちで取り組むと、優れた訳文が出来上がると思います。

[訳出のポイント]

- 1) 英文の時制はすべて過去形で書かれていますが、日本語で「～した」を繰り返すとリズムが悪くなり、緊迫感が伝わりにくくなります。適宜、現在形にするなどして、文章のリズムを整えましょう。
- 2) 英文の18行目以降など、ひとつのセンテンスがカンマで区切って長くなっています。しかし、それをそのまま日本語でひとつながりの文にしてしまうと、もたついた歯切れの悪い文章になってしまいます。視点が切り替わる場所(19行目のandの前)でいったん切る方が、すっきりします。
- 3) 課題文中に出てくる「Mrs Oswald」(14行目)、「Elizabeth」(14行目)、「the girl」(19行目)は、すべて同一人物です。掲げた文章だけでは根拠に欠けますが、暴徒が迫る屋敷に取り残された若奥様を英国軍の青年士官が救いに駆けつけた、という状況を推測して、「Mrs Oswald!」というカーターの呼びかけを工夫して表現してください。
- 4) 英文15行目の「subaltern」は、英国の軍人階級を表す語で、「准大尉」または「陸軍大尉よりも下位の士官」という意味です。しかし、ここは平易に「下級将校」または「下級士官」でいいでしょう(ただし「下士官」と混同しないこと)。また、同じ行の「regiment」も軍事用語で「連隊」です。
- 5) 英文21行目「black wave」は、16行目の表現「the mutineer, like a black wave」から「暴徒」の比喩だとわかります。しかし、そのまま「黒い波」と訳すのではわかりにくく、具体的に「黒い暴徒の群れ」と繰り返す方が親切でしょう。

[翻訳例]

猛スピードを保ったまま、男は馬を土塀に向かわせ、音を立てて塀を飛び越えると、藪を抜けてエリザベスの家へと急いだ。

「オズワルドの奥様! オズワルドの奥様!」騎乗していた男が叫ぶ。連隊の下級将校のひとり、カーターという青年だ。エリザベスがそう気付いたとき、カーターの叫びに怒号が応えた。

一続きの機関銃の発射音が響きわたる。叛徒の群れが黒い波のように、開け放された門からなだれ込むと、家に向かって殺到してくる。

ジェームズ・カーターは肩越しに暴徒を見やると、もう一度呼びかけ、怯える馬の手綱を引いて、ベランダの階段のところで立ち止まる。繁みの中にいるエリザベスは目で距離を測り、カーターに向かって走り出そうとした。だがエリザベスは動けなかった。黒い暴徒の群れがすぐ近くに迫っていたからだ。心を決めきれずにいると、また銃声が響き、カーター青年が両腕を振り上げるようにして、ベランダに横様に投げ出された。